

会 議 録

会議の名称	令和5年度第1回上尾市地域包括ケアシステム推進協議会	
開催日時	令和5年8月22日(火) 午後1時30分から午後3時00分まで	
開催場所	Web会議	
議長(委員長・会長)氏名	古谷野 亘	
出席者(委員)氏名	西村 昌雄、榎本 昌己、村橋 憲、鈴木 愛梨、松本 貴行、小野 慎也、伊藤 まつ江、諸橋 幹夫、添田 慎子、山川 英夫	
欠席者(委員)氏名	岡林 奈津未、尾上 道雄	
事務局(庶務担当)	長島健康福祉部長、畑健康福祉部次長、佐藤高齢介護課長、山田主幹、藤田副主幹、橋本主査、栗林主任、古川(文責)	
説明者	池田保険年金課主査	
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果
	(1) チームオレンジについて (2) シルバーeスポーツについて (3) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について	別紙のとおり (1) 了承 (2) 了承 (3) 了承
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者数 0名
会議資料	資料1 チームオレンジについて 資料2 シルバーeスポーツについて 資料3 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について	
<p>議事の内容を要約し、概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">令和5年 9 月 19 日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 <u>古谷野 亘</u></p>		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
古谷野委員長	本日の議題は次第の(1)から(3)までです。初めに(1)「チームオレンジについて」事務局から説明をお願いします。
事務局	(1) チームオレンジについて—説明—
古谷野委員長	それではただいまのご説明についてご質問あるいはご意見のある方がいらっしゃいましたらどうぞお願いいたします。 伊藤さんどうぞ。
伊藤委員	<p>先に、お年寄り 110 番のことを私が前回提案させていただいたのですが、私が言ったことと少し違って、説明が悪かったのだと思うのですが、私は小学生や中学生等を対象に色々なところで認知症サポーター養成講座をやった方が、街の中で認知症の方に声をかけた時に、その場で例えば地域包括支援センターや警察等に連絡をしなければいけない場が沢山あると思います。その時に、連絡をしてくれる家が近くにあるといいかなと思ったものですから、そういう意味で少しお年寄り 110 番の提案をしました。</p> <p>それから、今ご説明があった拠点についてですが、できればいつでもチームオレンジの方がいて、カフェもできたり、学習会もできたり、認知症の方や介護者の方達が立ち寄れるような拠点があるといいなというふうに思っています。それは、特に認知症の人達だけではなくて、他の地域の人も出入りすることができるような、例えば地域の公民館がそんな使い方ができると良いと思っています。</p> <p>ただ、例えば団体に借りるときは、団体への貸し出しという形になってしまうので、そのあたりも、市の方から働きかけをしていただけると、地域の集まれる場所が公民館などにできるのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>また、地域包括支援センター単位でチームオレンジを作っていくというお話だと前回も伺いました。地域の身近なところでチームオレンジの活動ができるのはとてもいいことだと思うのですが、スタート時などは、地域包括支援センター単位ではなく、例えば介護者サロンや初期集中支援チームで、本人交流会や介護者の勉強会などをされていると思います。そのときの対象者というのは、市内全域に渡っているもので、できればそういう本人交流会が一つの本人や家族も参加したチームオレンジという形を取れるのであれば、地域包括支援センター単位でなくてもチームオレンジというのができてよいのかなというふうに思うのですが、そのあたりはどのように考えたらよいでしょうか。</p> <p>またチームオレンジが各地域包括支援センター単位で出来たときに、内容について情報交換などをされると思うのですが、チームオレンジも連絡会など情報交換をするような場があると、とても参考になるのではないかなと思うのですが、そのあたりはいかがかなと思います。</p> <p>もう一つ、年に 1 回、認知症サポーター養成講座とステップアップ講座を開いていただけると思うのですが、結局チームオレンジの活動に結びつくというこ</p>

伊藤委員	<p>とでは、その後どうするかということだと思います。認知症サポーター養成講座では基本的な勉強になってしまうので、その後、認知症の人でもそれぞれ状況が違ったり、具体的なことについて、色々ご本人が参加して下さったり、介護者が参加して下さるような勉強会のようなものがあるといいなと思っ ているのですが、そのことでキャラバンメイトの方が、そういうときの講師などを担えるのではないかなと思うのですが、今、上尾市のキャラバンメイトはどんなふうになっているのか伺いたいと思います。</p> <p>それと、認知症サポーター養成講座の対象者の多くが、60代以上の人や小学校中学校の子どもたちですが、是非20代から50代の人達がそういう講座に出れるように、日時や場所の問題などいろいろあると思うのですが、認知症のことを学べる場が欲しいと思います。そういう方の中からチームオレンジのメンバーになっていただくと、またちょっと違った展開ができるのではないかなというふうに思います。</p> <p>もう1つ、今のことも含めてですが、高齢介護課がもちろん中心になってやる事業ですが、例えば、図書館主催で認知症サポーター養成講座や認知症についての講座などを開いていただくと、また対象者の方も違ってくるのではないかなと思います。図書館は認知症に関する図書などを集めたコーナーを持っている図書館も増えてきているので、上尾の図書館でもそういうことを検討していただけるといいかなというふうに思っています。</p>
古谷野委員長	はいありがとうございます。今いただいたご質問やご意見に対して、高齢介護課の方をお願いします。
事務局	<p>今、ご意見ご質問いただいたと思いますので、順番にご対応していきたいと思 います。</p> <p>まず、1点目でチームオレンジの活動に限ったものではないのかもしれませんが 拠点があるといいなということで、例えば公民館などを、団体としての貸し出 しというのではなくおそらく常設的なものとしてあるといいのではないかと いうご意見かなと理解しました。チームオレンジに関しましては、拠点がある・ 無しに関わらず活動していけるというものはあるのですが、実際こういった 拠点を持っていて誰でも参加できる場所であるといいなということで理解を しましたので、今後、すぐにこの場で可能ですというお答えまでは少し難し いのですが、そういう公民館に限らずそういった拠点的なものをどこかに展開 できないかなというのを念頭に置いて、例えば民間の方、それから事業者さん などに協力をお願いできるようなところがあれば、そういったところにも協 力を求めながらやっていけるのではないかなというふうに考えましたので、 今後の検討材料のひとつとさせていただければと思います。</p> <p>2点目ですが、今チームオレンジを地域包括支援センター単位でやっており ます。地域包括支援センターは立ち上げの方を進めておりますが、地域包括 支援センター単位だけではなくて、本人交流会やサロンといったような、広 い範囲でやっているところでも良いのではないかなというご意見をいただきました。 そこにつきましても、実際、地域包括支援センター単位だけではなく、チ ームオレンジの活動に繋がっていくことは、理想的なところかなとは考 えております。</p> <p>今は試行的段階ということで、一旦包括圏域という形でお話させていただ いておりますが、一応初期集中支援チームですとか、他の機能しているものもご</p>

<p>事務局</p>	<p>いますので、そういったところで声が上がってきた、あるいは、お話できるなどといったときには、地域包括支援センター圏域に限らず、やれるような方向性を考えていきたいと思っております。</p> <p>3点目が、チームオレンジ同士の情報交換などの場があると良いのではないかと いうお話をいただきました。まさにその通りかなと思っております。 今後どういったチームオレンジが立ち上がっていくかでも、異なってくるとは 思います。どのような情報交換ができるかというのは、必ずしも集まってやる だけではなくて、色々な、例えばポータルサイトとか、そういったものを利用 するということも考えるのかなと思っておりますので、これにつきましても、検討し なくてはいけないということで理解をいたしました。</p> <p>4点目が、認知症サポーター養成講座につきまして、市の方で年2回ほど実施し ておりますがその後どうするか、認知症の方について具体的なことを学ぶ場や 勉強会があるといいということで、キャラバンメイトの活用についてお話をい ただいております。今のキャラバンメイトの方には、企業の方々から講演会の 依頼などがありますと、市が窓口になりまして、ご紹介をさせていただいて いるところがございますので、認知症サポーター養成講座やステップアップ 講座のその先の学びの場というのが、キャラバンメイトさん含め、更に充実 してさせていく必要があるのかなというふうに思いましたので、そのところ を検討材料のひとつとしていただきたいかなと思いました。</p> <p>5点目が、認知症サポーター養成講座などが、60代以上あるいは小学、中学生 がメインになっているけれども、20代から50代ぐらいといった年代もターゲッ トにしていったらどうかという形の話もいただきました。 実際に講座を平日に開くと、どうしても働かれている方が多いので、確かに少 し参加しにくい時間帯にはなっているというところと、活動自体もなかなか時 間などを考えますと20代から50代の方の参加が確かに少ないところではある と思います。今、年齢などを絞っているわけではないですが、今のままの形で やりますと、20代から50代の方が少なくなってしまうのではないかと思 いますので、幅広い年齢層の方に参加いただけるようなところは、考えていき たいと思うのですが、今年度につきましては、まずはどこまで立ち上げていく かということもございますので、動向を見きわめながら、20代から50代など も、ターゲットにするということについて考えていきたいと思っております。</p> <p>最後が6点目ですが、図書館主催で認知症のことについて、書籍など色々あり ますので、様々なことを企画されると良いのではないかとというご意見をいた だきました。今までは図書館主催でそのようなことなどは考えていなかったと ころでしたので、新しい意見を頂戴したというところがございます。関係各課と 調整相談もさせていただきながら、図書館だけではなく色々なところを活用さ せていただければと思います。質問をいただいた公民館や図書館は、それぞれ 教育委員会ですので、教育の場のところとも相談を進めながら認知症について、 課など関係無く活動ができるように進めていきたいと思っております。</p>
<p>古谷野委員長</p>	<p>他にご質問、ご意見のある方はいらっしゃいますか。 先ほど地域包括支援センターを単位としてというのは、地域包括支援センター の担当、守備範囲からはみ出した活動は一切支援しないという意味ではないと 思うのですがいかがでしょうか。</p>

事務局 古谷野委員長	おっしゃる通りです。 要するに、最初の出発点がどの地域にあるかによって担当する地域包括が違うことにはなったとしても、その活動が地域や市内全域に広がっていったとしても別にそれは構わないですね。
事務局	はい。既に似たものとして、アッピー元気体操をはじめとする通いの場をやっておりまして、それも地域包括支援センター単位で支援をさせていただいています。団体によって、その地域だけというところもありますが、地域に限らず全市的に大丈夫だという団体もございますので、チームオレンジに関しましても、相談をした地域包括支援センターというのは1つどこかに決まると思いますが、特にメンバーや活動の範囲というものは全く限定していないというものになります。
古谷野委員長	ありがとうございました。他いかがでしょうか。 私は2つほど申し上げたいなと思っていました。1つは、この体系図に、成年後見センターを入れてください。この間、成年後見の方の地域ネットワークの検討会をやったところですので、こちらにもぜひ入れていただきたいというのが1つ。 もう1つは、今のこの成年後見の地域ネットワークの話もそうですが、同じようなネットワークを作らしようという話がどんどん出てきています。これは、要するに厚労省の主管課が違っていると、それぞれのところがネットワークを作れ、地域ネットワークを作れというふうに言うてくるからですが、それを受け止める市の方には同じようなものがどんどん溜まってくる。そして、多くの場合、共通する人達あるいは機関が入ってくるんですね。それらが全てうまくまとまるような市側での再構成みたいのを、いつかの段階でやっていただかないと、同じような名前のネットワークが沢山出てきてどれに行っていくのか分からないという話になってしまいそうなので、そこら辺の交通整理も今後やっていただければと思ひまして、ぜひお願いしたいと思ひます。
事務局	はい。後見センターにつきましては、確かにこの中にも入れられるかもしれないと思ひしております。これは、作る時に認知症の共生・予防という言葉に引っ張られすぎていたことと、成年後見センターは別立てで考えておったものですから、ここに入っていなかったということではあるのですが、成年後見センターの方を入れることについて考えていきたいと思ひます。 2点目のネットワークの再構成・交通整理につきましても、確かに成年後見の方でもそうですし、この認知症のことでもそうですし、色々なところでネットワークがあり、それぞれが少しずつ被っていたりしており大変わかりにくくなっているなというところは感じているところがございますので、本当に分かりやすくお伝えしていけるように努めてまいりたいと思ひます。ありがとうございました。
古谷野委員長	よろしいでしょうか。 それでは2番目の議事に移ってまいります。シルバーeスポーツについて栗林さんお願いします。
事務局	(2) シルバーeスポーツについて—説明—
古谷野委員長	それでは今のご説明についての質問あるいはご意見頂戴したいと思ひます。い

古谷野委員長	かがでしょうか。 2回やった感じはどうですか。2回目になるとずいぶん慣れているような印象はありますが。
事務局	人にもよってくるのですが、慣れたという方もいれば、とても上達してしまって、1回目よりもすごいスピードでしたりする方もいて、様々な方がいらっしゃいます。
古谷野委員長	eスポーツって、やるための道具代などコストがかかりますよね。これについてはどう考えていますか。
事務局	全体の道具に関しましては、今後もシルバーeスポーツの事業を展開していきますので、市の方でゲーム機やゲームソフトというものは購入をしております。今後もし通いの場でeスポーツの団体が立ち上がった際には、通いの場の補助金というものがありますので、そういったものを利用しながら、団体様の方でゲーム機や必要な道具というのを揃えていただければというふうに考えております。
古谷野委員長	ありがとうございます。他にいかがでしょうか。 伊藤さんどうぞ。
伊藤委員	見当外れなことかもしれないのですが、参加されている方は、自主的にバラバラで参加されていると思うのですがけれども、例えばそれをいきいきクラブに声かけをしたらどうなのかなと説明を聞きながら思いました。今、いきいきクラブはあまり魅力がなくて、入会する人がどんどん減っているんですね。そういうところに何か少し新しいプログラムとして入ったら、いきいきクラブはまた違ってくるのではないかと思いました。私も会員にはなっているのですが、なかなか参加できなくているものですから。
事務局	いきいきクラブを担当しております、高齢者福祉担当の山田と申します。伊藤委員様本当に貴重なご意見ありがとうございます。確かにいきいきクラブはコロナウイルスの影響もあって会員数が本当に激減している状況でございます。会員増強運動なども展開しております、さらに、いきいきクラブの活動の内容についても、もっと新しい活動についていろいろな形で導入していこうじゃないかというような話も役員会の中でも出ておりますので、当然このeスポーツについても導入の検討をしていくことにはなるとは思います。その辺も含めて、今後またeスポーツ体験会等を通じて意見等を聴取していきたいと思っております。
古谷野委員長	ありがとうございました。他にいかがでしょうか。 確かにいきいきクラブだからって民謡しかやっちはいけないってことは無いわけですね。
事務局	はい。eスポーツなど様々な活動を取り入れていただければと思っております。
古谷野委員長	他にいかがでしょうか。松本さんどうぞ。
松本委員	ケアマネ会の松本です。非常に私もこれから年を取っていくので動けなくなっ

松本委員	たときの趣味で何かないかと思ひ、eスポーツは良いと思ひているので、続けていっていただければと思ひています。あと、デジタルディバイドですかね。デジタルを使っていない方が、これから色々買ひ物やそういったものをデジタルでできるようになるといふところで、そちらの方は今後進めていく予定はないのかなといふところと、そういったところも、どこかの場所デジタルを使ひて生活が成り立つようなものも作っていただければいいのかなと思ひました。以上です。
古谷野委員長	ありがとうございます。eスポーツだけじゃないですよ。スマホ教室を組み合わせることによつて、例えば買ひ物にしても、あるいは移動などに関しても、かなり有効な使ひ方があるはずなので、その辺も含めて身に付けていただく機会にできるといいといふ、そういう狙ひも多分初めからあったのではないかと思ひますが、そういう理解でよろしいですか。
事務局	はい。今回の体験会では、本当に初心者コースという形のスマホ教室になっておりますので、今後色々なところでスマホ教室を開催していく際には、上級者編や中級者編という形で難しさというのをもコースを分けて開催できたら、例えば、携帯電話を使ひて買ひ物できる人も増えてくるのではないかと考えております。
古谷野委員長	私の住んでるところでは、散歩して、スマホで写真を撮つて共有するといふプログラムをやつたらすごい人気だったといふ話があります。いろんな形がありうると思ひるので、ご検討いただければと思ひます。
古谷野委員長	他にいかがでしょうか。 それでは3番目の議事に進んでまいりたいと思ひます。 高齢者の保険事業と介護予防の一体的な実施について、保険年金課の池田さんお願いします。
池田保険年金課主査	(3) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について—説明—
古谷野委員長	それでは、今のご説明に対してのご質問あるいはご意見を頂戴したいと思ひます。口腔フレイルの話もずいぶん取り上げてくださっているようですが、榎本先生何かコメントをいただけますか。
榎本委員	まず自分で意識して管理している人は全く心配いらなし、しなくていいわけですよ。このハイリスクアプローチでは、自分で意識してない人を見つけ出して、強制的に個別指導するとかそういう感じではないのですかね。もし強制的に見つけ出して指導したとしても、その人が自分で意識改革する雰囲気がないとそこから先が続かないかなといふのが、我々がいつも診療して思ひているところです。踏み込んで意識改革の方まで持っていけたらいいのではないかといつも思ひていますけども。
古谷野委員長	実際には強制つていふのは難しいですよ。ですから、こちらから押しかけていき、何か届けて、継続して取り組んでもらえるような工夫をしていくといふことになるのではないかと思ひのですが、どうですか。
事務局	今回の口腔フレイルリスクの高い方への相談会ですが、事前にこちらでデータ

事務局	<p>などを調査して対象者を絞り込んでおりまして、その中で歯科医院に 1 年間を通して一度も受診されてない方にご心配な状況がないかどうか案内を行っており、通知を見てご自身の状況を振り返るきっかけにもなると考えております。その他の抽出基準としましては、やはり市の検診などを受けていただいた質問票で歯の不具合を感じている、硬いものが食べにくいなどの項目にチェックを入れてくださり、自覚のある方などにも合わせて送っています。</p>
古谷野委員長	<p>他にご質問ご意見の方ある方いらっしゃいますか。 リハビリの小野先生いかがですか。何かご意見あるいはコメントをいただけますか。</p>
小野委員	<p>我々のリハビリの方では、ポピュレーションアプローチの方を数年やらせていただいております。過去はコロナ禍なのもあり、通いの場等が動いてなく人を集めたところにやっていたため、興味のある人を対象に行っていたようなものだったので、先ほどと同じようになかなか興味のない人までのアプローチは難しかったかなというふうに思っております。ただ、今年度からお話のあった 1ヶ所に関しましては、通いの場ではあるのですが主で行っていたのが歌の会だったので、運動に興味が比較的薄い方を対象に行えたということで、これまでの事業からすると確実に前進していった形にはなるのではないかと考えております。またここから圏域も広げていくということでしたので一緒にまたやっていければというふうに思っております。以上です。</p>
古谷野委員長	<p>ありがとうございます。前回も言ったのですが、ポピュレーションアプローチは、ひょっとするとやる必要のない人に対してやることになってしまうということが問題としてはあるわけで、こちらからアプローチしていく、それも今お話にあったように、必ずしも運動に関心のない人のところに運動の話を持っていくというのは良い機会かもしれないですね。</p>
古谷野委員長	<p>他いかがでしょうか。 西村先生には以前から栄養のことをずいぶんご指摘いただいておりますがいかがですか。</p>
西村副委員長	<p>これはですね、私は国の問題だと思うのですが、施設患者さんの栄養状態、総蛋白とかアルブミンを経時的に見ていると、施設に入所してから、アルブミンや総蛋白が徐々に低下していくことが多いです。その原因は何かというと、施設の献立表を見ますと 1 日の総蛋白の摂取量っていうのが、大体どこの施設も 60 グラムぐらいなっている現状があります。それは何を根拠にしているかというと、厚生労働省が戦後間もないときの日本人の取るべき栄養状態ということで、食事状況の悪い時に定めた 60 グラムを今でも採用しています。私が昔に卒業した病院は、明治から大正時代の献立表を見ますと 1 日の入院患者のたんぱく質摂取量っていうのは大体 80 から 90 g グラムという制定がされていました。食事状況が悪いときから低栄養が続いているわけで、国がたんぱく質の設定を見直さない限り一向に改善されないというところですね。これは国の問題で、国がそういう 60 グラムでいいというから、どこの施設や病院の給食も、60 グラムを基本としているんですよ。これが一番の問題だと思います。家庭ではそういうことないですから、ご家庭では十分な栄養が確保されているけれども、入院・入所するとですね、低栄養が進行していくというサイクルに入ってしまう、筋肉だけではなく骨の方など色々なところで障害が起きていくというふうには私は思っております、ここらあたりをどこかで、もう国のレベ</p>

西村副委員長	<p>ルで対応していかないといけないと思っております。</p>
古谷野委員長	<p>ありがとうございました。 ここでの管理栄養士さんにやっていたている栄養講座ではどうでしょうか。</p>
池田保険年金課主査	<p>ポピュレーションアプローチでは、栄養士会の管理栄養士さんの方で講義を行っていただいております。たんぱく質の積極的な摂取について特に力を入れて呼びかけをさせていただいております。その何gの摂取というのが、今手元に資料を用意しておらず、具体的にはお伝えができませんが、特にしっかりたんぱく質を摂るような声かけはさせていただいております。</p>
古谷野委員長	<p>ありがとうございます。他はいかがですか。 2番目のハイリスクアプローチに関してなんですけども、東京都の杉並区もこれをやっているんです。目的は、行方不明の100歳高齢者が出たとき、訪問して怪しいような人を見つけ出すということでスタートしていて、最初は言ってみれば、住民基本台帳を綺麗にする、不在住の人をあぶり出すということが目的だったのですが、委員会で検討をしていく中で、必要とするサービスに繋がっていない人を探し出してその人をサービスに繋げていくというふうに、目的が変わってきて、現在も安心おたっしや訪問という名前で毎年実施しています。 そうすると、不在住ということで、住民課に回して住民票の調整にまで行くケースも毎年数件はあるのですが、多くのケースがサービスにうまく繋がっていています。位置づけとしては住民票を綺麗にするということではなく、こちらから必要とするであろう人にサービスを届けていくというふうに視点を変えたというのが、大きな目的の変更でした。杉並区と上尾市とでは地域の事情もずいぶん違って、例えば自治会などが上尾市はずいぶんしっかりしていますし、社会福祉協議会の地域支部もありますので、事情はずいぶん違うとは思いますが、何でも相談が来るのを待っているのではない、いわゆる申請主義ではないというふうに発想を変えていくことのひとつのチャンスになれば、この2番目のハイリスクアプローチはすごく有意義なんじゃないだろうかと思います。大変な作業になりますが、ぜひ続けていただければと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。 私達も、来年度この取り組みを実施するにあたりまして、既にこの一体的事業で不明高齢者の取り組みに着手している市町村等にも状況を伺ったところです。やはり、通知を出して返事が帰った方に確認をしてみると、もう介護のサービスが必要な状況であったり、生活保護等の支援が必要であったりという方が把握できて、訪問の時点でこちらの一体的事業の担当者とともに、他の関係機関と一緒に訪問するというようなケースも多かったと聞いておりますので、サービスに繋ぐことをより一層、他機関との連携を強化しながら進めていく必要があると認識しております。</p>
古谷野委員長	<p>ありがとうございます。他、いかがでしょうか。 ご意見やご質問はよろしいでしょうか。そろそろ予定された時間になってきているのですが、保健所の山川先生。非常にお忙しいところ、今日初めてご参加いただきましたが、何か一言頂戴できますでしょうか。</p>
山川委員	<p>山川でございます。本日初めて参加をさせていただきました。上尾市さんはこの認知症関連のことなどを中心に、高齢者の対応の取り組みについて様々なア</p>

	<p>アイデアを持って実に色々なことをやられているんだなということで、大変驚きと感銘を受けた次第でございます。多くの関係の機関の皆様のアイデア等々をもって歴史ある取り組みを続けてこられた結果、これまでの高みになっているのかと勝手ながら少し思った次第でございます。色々私も勉強させていただけることが今お聞きすると非常にございますので、今後ともご協議等々いただければと思った次第でございます。何らか私どももお役に立てれば幸いに存じます。</p> <p>あと 1 点だけすみません。私どもは新型コロナでの関連では大変これまでお世話になりました。今、第 9 波ということになっておりますが、今年の 5 月 8 日以降の状況というのが、私ども保健所では流行状況が大変把握しにくくなってしまっておりまして、医療機関の先生方から個別にお伺いしたり、県の方の間接的なデータを得たりしております。新しい最新の情報が明日出るので、1 週間前のものですので、実質的には 2 週間前のデータになりますが、県全体での定点報告が 16 を超えたということで、感覚的には非常に数の多かった去年の冬の第 8 波でいきますと、11 月半ばあるいは 1 月の下旬ぐらいの感覚かなと。そして今、E.G.5 という、新しいこれまでの XBB.1.5 という大変感染力の強いものよりもさらに感染力強いものがどうやら主流になってきつつあるということでございますので東京都も埼玉県もそのような状況ですので、私も今マスクはしておりますが、適宜混み合ったところに行くなどそういう際は大変暑いのですが、マスクというのは非常にまだ有効と思いますので、マスクの着脱の切り替えはこまめに工夫をいただければと思います。本日はありがとうございました。</p>
古谷野委員長	<p>ありがとうございました。コロナはいなくなったわけではないので、やはりいろいろな地域の活動の中でも注意をし続けていくことが、肝要だろうと思います。</p> <p>それではこれで本日の予定された議事が終わりましたので、事務局の方にお渡しいたします。藤田さんお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、4 その他について事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>最後に、次回の会議のことですが、令和 6 年 3 月前後の開催を予定しております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>昨年度から、年 3 回開催していたものを 2 回に変更させていただきました。</p> <p>次回 3 月前後でまたお願いしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>最後に 5 閉会ということになりますが、本日お忙しい中、長時間にわたりましてご出席と貴重なご意見をいただきまして大変ありがとうございました。以上をもちまして、令和 5 年度第 1 回上尾市地域包括ケアシステム推進協議会を閉会します。ご協力ありがとうございました。</p>